

注 意 報

茨城県病害虫防除所

平成 24 年 5 月 8 日

病害虫発生予察注意報 第 2 号

小麦赤かび病の発生が多くなると予想されます

2 回 の 防 除 を 徹 底 し ま し ょ う

[発令の内容]

作物名：小麦
病害虫名：赤かび病
発生量：多い
発生地域：県下全域

[発令の根拠]

- ① 赤かび病(写真)の原因となるカビの胞子は、気温が高く、曇雨天の日に飛散する。4月下旬から5月上旬にかけて、飛散しやすい条件が続いた(表1)。
- ② 六条大麦の一部で発病を確認している。
- ③ 5月6日発表の気象予報によると、向こう1週間の気温は平年並か高いと予想され、発生を助長する条件である。本年は、播種時期によっては出穂が平年よりやや遅れており(表2)、今後、本病に感染しやすい生育ステージを迎える圃場が多いため、赤かび病の多発生が懸念される。



写真 小麦赤かび病の発病穂

表1 水戸市及び龍ヶ崎市における赤かび病の子のう胞子飛散好適条件*の出現状況

	●：子のう胞子の飛散好適日										
	4月					5月					
	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6
水戸市	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
龍ヶ崎市	●	●	●			●	●	●	●		

*子のう胞子の飛散好適条件：日最低気温 10℃以上、日最高気温 15℃以上で、湿度 80%以上かつ降雨日とその翌日(アメダス水戸及び龍ヶ崎の実測値を参照した。ただし、アメダス龍ヶ崎は湿度データがないため、気温と降雨条件のみ参照した。)

表2 農業研究所における小麦の出穂期と防除適期

地域	播種期	品種	出穂期 (平年値 ¹⁾)	防除適期 ²⁾
水戸市	11月4日	農林61号	5月1日 (4月26日)	5月8~11日
		さとのそら	4月28日	5月5~8日
	11月21日	農林61号	5月3日 (5月2日)	5月10~13日
		さとのそら	5月1日	5月8~11日
龍ヶ崎市	11月9日	農林61号	4月25日 (4月19日)	5月2~5日
		さとのそら	4月24日	5月1~4日
	11月24日	農林61号	4月29日 (4月23日)	5月6~9日
		さとのそら	4月27日	5月4~7日

1) さとのそらは、平年値がないため記載していない。

2) 1回目の防除適期は、出穂期の7~10日後とした。

[防除対策]

- ① 表3を参考に2回の薬剤散布を行う。小麦では、開花期から10日程度の間が最も感染しやすい時期であり、1回目の防除適期は開花始期～開花期(出穂期の7～10日後頃)である(表2)。2回目の防除は1回目薬剤散布の7～10日後に行う。2回目の散布を実施する際は、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ② 薬剤散布後、降雨が予想される場合は、粉剤よりも水和剤(フロアブル剤、ゾル剤を含む)等の方がより高い効果を期待できる。
- ③ 薬剤散布の際は、周辺作物等への飛散(ドリフト)に十分注意する。

[収穫期以降の防除対策]

- ① 収穫が遅れると、被害粒から健全粒へと感染が広がる恐れがあるため、適期収穫に努める。また、圃場内で倒伏した部分は多湿条件となり、感染が広がっている恐れがあるため、必要に応じてその部分は刈り分けて処分する。
- ② 含水率の高い麦を収穫した場合、袋の中で本菌が蔓延することがあるので、収穫後は時間をおかず適切な乾燥・調製を行う。
- ③ グレーダーによる粒厚選別(2.4mm以上)等は被害粒の除去に有効である。
- ④ 被害残渣やイネ科雑草は翌年の伝染源となるので、土壌中にすき込んで腐敗させる。

表3 小麦赤かび病に効果のある主な薬剤(平成24年5月1日現在)

薬剤系統名	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 -本剤の使用回数	有効成分	無人ヘリでの登録の有無 ¹⁾
DMI剤	シルバキュアフロアブル [※]	2,000倍	7-2	テブコナゾール	有
	チルト乳剤25	1,000 ~2,000倍	3-3	プロピコナゾール	有
	ワークアップフロアブル [※]	2,000倍	14-2	メコナゾール	無 ²⁾
ストロビリン系	ストロビーフロアブル [※]	2,000 ~3,000倍	14-3	クレキシムメチル	無
ベンゾイミダゾール系	トップジンM水和剤 [※]	1,000 ~1,500倍	14-3 (出穂期以降は 2回以内)	チオファネートメチル	無 ³⁾

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載されている使用方法・注意事項等を確認のうえ、周辺作物への飛散に留意する。

1) 無人ヘリ散布を行う場合は、希釈倍数や収穫前日数等が異なるので十分注意する。

2) ワークアップフロアブルと同一の有効成分であるワークアップS乳剤は麦類で無人ヘリの登録がある。

3) トップジンM水和剤と同一の有効成分であるトップジンMゾルは無人ヘリの登録がある。

※印を付けた薬剤ではブームスプレーヤーによる専用ノズルを用いた少量散布も可能である。使用時には登録内容を確認する。